

## 2023 年度における業務実績の概要

※◆は重点的計画、◇は重点的計画でない項番。

## 県立大学

## 教 育

## ◆項番 1 新教養教育カリキュラム「県大世界あいち学」による教育を実施

- ・1 年次必修とした「多文化社会への招待」、「データサイエンスへの招待」及び、選択科目である「県大エッセンシャル」、「県大教養ゼミナール」を全学部連携型授業として開講
- ・複数学部連携型授業として、「グローバル社会の諸問題」、「エリアスタディーズ総論」、「いのちと防災の科学」、「ものづくりの現状と課題」を開講

【指標】(全学部連携型授業を 1 科目、複数学部連携型授業を 4 科目開講する。)

⇒全学部連携型授業 4 科目、複数学部連携型授業 4 科目を開講

自己評価：Ⅳ

## ◇項番 4 専門教育における効果的な教育カリキュラムへの見直し

- ・日本文学学部において、新カリキュラム「世界へ発信する日文カリキュラム」の 2024 年度開講に向けた準備を実施
- ・教育福祉学部において、「愛知地域共生教育プログラム」を新たに開講し、外国にルーツを持つ子ども達への教育と支援をテーマに語学相談員や外国人保護者を招いた授業や、韓国・ソウル基督大学への交流短期留学を実施
- ・情報科学部において、企業連携型 PBL として民間企業 2 社と連携した授業を実施

自己評価：Ⅳ

## ◇項番 5 大学院教育におけるコース、カリキュラムの見直し

- ・国際文化研究科「コミュニティ通訳学コース」において、7 名の教員を中心に履修学生の実情に応じた教育体制づくりを進め、3 名の修了生を輩出
- ・看護学研究科「公衆衛生看護学高度実践コース」において、保健師養成を継続して実施し、4 名の学生全員が保健師国家試験に合格

自己評価：Ⅳ

## 研 究

## ◆項番 19 外部資金の獲得に向けた取組の推進

- ・5 研究所・1 プロジェクトチームが学内予算の配分を受けることなく運営
- ・2023 年度科学研究費補助金について、申請に係る講習会、個別 Web 面談及び申請書レビューを実施し、全国平均を上回る 33.8%の採択を達成(全国平均：27.5%)
- ・研究推進局 Web サイトに、研究所およびプロジェクトチームの研究成果を随時掲載し、リアルタイムに発信

【指標】(研究に係る外部資金の採択・受入件数を、第三期中期計画最終年度までに、第二期最終年度から 10%以上増加させる。)

⇒2023 年度採択・受入件数 190 件(2018 年度：195 件から 2.6%減少)

自己評価：Ⅲ

## 地域連携・貢献

## ◆項番 22 県等との意見交換会を通して、地域課題への対応に向けた取組の推進

- ・愛知県民安全課との共催による「性暴力被害防止セミナー」を開催した他、政策企画局との連携による学術講演会の開催、福祉局高齢福祉課との連携による「認知症県民フォーラム」や「認知症フォローアップセミナー」における取組の報告等、新たな共催事業・貢献活動を実施
- ・愛知県生涯学習推進センターとの協力事項に関する覚書を締結し、愛知教育大学を含めた「3 者連携講座」の 2024 年度新規開講を決定
- ・近隣の「産学官金」における課題に対して、本学学生・教職員で地域課題の解決を目指す取組(MAPU)として、愛知県建築局公共建築部公営住宅課公営住宅管理室との連携による「どうする県営住宅?」、トヨタ紡織株式会社との連携による「どうするカーシート?」、愛知県立津島高等学校ほか県立高等学校の関係者との連携による「どうする国際バカロレア?」の、計 3 回を開催

【指標】(愛知県の関連部署との意見交換会を 1 回以上、県との共催事業・貢献活動を 1 件以上)

⇒意見交換会を 3 回、共催事業・貢献活動を 7 件実施

自己評価：Ⅳ

## ◇項番 25 専門職業人や本学卒業生等の社会人を対象とした講座等を開講

- ・文部科学省の「令和 4 年度成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業」に採択され、大学院人間発達学研究所と看護学研究科の協働による、「医療・教育福祉現場を変革するエキスパート人材育成研修」を新たに開講  
(必修受講者 35 名、部分受講者 37 名(延べ 414 講座)が受講)

自己評価：Ⅳ

## その他

## ◆項番 29 海外からの研究者・留学生の受入施設等の充実

- ・留学生と本学に通う日本人学生との交流促進のための「異文化交流スペース」を施設名の公募により『CroCuS(クロッカス)』として新設し、ソウル基督大学やロイヤル・メルボルン工科大学とのオンライン交流、学内外の教員等をスピーカーとしたグローバルセミナーの開催、また協定大学からの留学生を対象とした学生主催による WelcomeParty の開催等、種々の企画イベントで利用

自己評価：Ⅲ

# 2023 年度における業務実績の概要

※◆は重点的計画、◇は重点的計画でない項番。

## 芸術大学

### 教育

#### ◆項番 30 実技力と芸術性をもつ人材の育成に向けた魅力ある学部教育の推進

- ・作曲コースの教員により作成、改訂し本学で使用されてきた音楽学部の基礎教育科目「和声」の教科書が、2023 年 3 月末に出版社より出版、他大学でも教科書として採用され、出版社からの要請により本教科書課題の解答集の作成が決定するなど、外部から高評
- ・アーティスト・イン・レジデンス事業を 3 企画採択、ワークショップ等を実施

【指標】(アーティスト・イン・レジデンス及び外国人客員教員による事業を毎年 4 件以上実施)

⇒アーティスト・イン・レジデンス事業 3 件、外国人客員教員事業 3 件を実施

自己評価：Ⅳ

#### ◆項番 33 特色ある教育研究の展開に向けた専攻・カリキュラムの見直しと F D 活動による教育力の向上

- ・新たに「全学カリキュラム委員会」を設置し、当該委員会の下に美術学部教務委員会、音楽学部カリキュラム委員会を位置づけ、教育内容や時間割編成等を含む抜本的なカリキュラム改革を全学的に推進するための体制を整備

【指標】(2022 年度に美術学部の専攻・領域を見直し、新たにメディア映像専攻を開設)

⇒予定通り、2022 年度にメディア映像専攻を開設

自己評価：Ⅲ

#### ◆項番 36 学生の将来目標・設計を啓発し、専門を生かせるキャリア支援を推進

- ・新たな就職支援の取組として、学生の自立を促すアーティスト・クリエイター支援講座を 3 件実施したほか、社会の第一線で活躍するインハウスデザイナーによるポートフォリオアドバイスを 15 社実施

【指標】(キャリアサポートガイダンスを毎年 25 件以上実施)

⇒キャリアサポートガイダンスを 45 件実施

自己評価：Ⅳ

### 研究

#### ◆項番 39 教員の芸術活動・研究の推進とその成果の地域還元

- ・受賞実績として、美術学部では油画専攻安藤正子准教授が第 74 回芸術選奨文部科学大臣新人賞、音楽学部では作曲コース安野太郎准教授が 2023 年度佐治敬三賞を受賞
- ・国際的な活動として、美術学部では欧米やアジアにて教員による発表活動を実施し、世界 3 大アニメーション映画祭の一つとされるザグレブ国際アニメーション映画祭にメディア映像専攻有持教授の作品がノミネートされたほか、音楽学部では作曲コースの教員がアメリカのバトラー大学にて研究発表及び講義を実施するなど、海外での活動を推進
- ・弦楽器コース教員を中心とした「室内楽の響演 Vol. 3」を開催、本学教員 13 名が出演

自己評価：Ⅳ

#### ◆項番 40 研究支援体制の整備、企業等との連携強化、外部資金の獲得増に向けた取組

- ・長久手市から委託を受け、長久手市内巡回バスのラッピングなど市民への環境意識醸成を図るビジュアルデザインの共同研究を実施
- ・文化財保存修復研究所を中心に名古屋市美術館所蔵「東山動物園猛獣画廊壁画」の修復や名古屋造形大学との「親鸞聖人絵伝」修復に係る共同研究などを推進
- ・ヘアカラーを製造・販売するホーユー株式会社と連携し、公募により投稿された「髪を染めた日」のエピソードを元に学生が制作したアート作品の展覧会を実施

【指標】(科学研究費及びその他の助成金を毎年 20 件以上申請)

⇒申請件数：32 件（うち、採択 12 件）

自己評価：Ⅳ

### 地域連携・貢献

#### ◇項番 41 愛知県や他の自治体、他大学、産業界、文化施設等との多様な連携を推進

- ・「あいち県民の日」連携事業として本学管弦楽団による定期演奏会に県内の児童及び生徒 200 名を無料招待
- ・「あいちアール・ブリュット」として展覧会でコンサートやシンポジウムを実施した他、あいちアール・ブリュット 10 周年を記念した芸術系 3 大学による協定を締結
- ・国際芸術祭「あいち」組織委員会が運営するアートラボあいちにて、本学単独企画として、活躍する卒業生アーティストの展覧会「Gap in boundary」を開催
- ・名古屋工業大学「アートフルキャンパス構想」を同大学とともに共創、連携事業を促進させるため、新たな「F+事業 (F+ART、F+LAB、F+AIR、F+GALLERY)」を展開、アーティスト・イン・レジデンス、作品の設置、芸術体験ワークショップの開催、授業の開講、研究交流を開始し、本プロジェクト等の成果発表や学生の発表機会の促進、社会への発信機会の促進を実施
- ・日進市教育委員会と連携協定に基づき、愛知県立芸術大学の学生・教員と日進の子どもたちによる「音楽のまち日進 しえんコンサート」を開催

自己評価：Ⅳ

### その他

#### ◆項番 45 大学 Web サイトなど情報発信ツールの充実、芸大のブランド・知名度向上

- ・大学ブランドの向上に向け、英語版 Web サイトのリニューアルにあわせて講義棟をモチーフとしたオリジナル欧文タイプフェイス (フォント) とロゴを開発

【指標】(大学 Web サイト・SNS のアクセス数を第三期最終年度に 150 万件以上とする)

⇒アクセス数 1,352,418 件 (大学 Web サイト、Facebook、X の合計)

自己評価：Ⅲ

# 2023 年度における業務実績の概要

## 法人運営

### 法人・大学運営

※◆は重点的計画の項番。

#### ◆項番 46 法人・大学の運営体制の充実と効果的・効率的な法人・大学運営の推進

- ・常勤役員連絡会議及び常勤四役会議を計 12 回開催し、常勤役員及び幹部職員間の情報共有や意見交換を実施

【指標】(第三期最終年度までに理事長・学長によるトップマネジメント事業費を業務費総額の 1%以上確保)

⇒2024 年度のトップマネジメント事業費予算額：20,523 千円（業務費総額の 1.10%）

自己評価：Ⅲ

#### ◆項番 48 様々な連携による大学の魅力づくりの推進

- ・連携事業として、以下の取組を実施

- ・愛知県革新事業創造部及びフランスの高等教育機関と連携し、「第 2 回スタートアップ国際シンポジウム」を開催
- ・愛知県農業総合試験場と連携して「第 2 回 A-A-A スタートアップシンポジウム～愛知県立大学・愛知県立芸術大学・愛知県農業総合試験場によるテック・アート・アグリ DX (法人)」を開催
- ・両大学の学生を対象にアントレプレナーシップ教育の専門家を招聘し特別集中授業を実施
- ・科学技術振興機構 (JST) の補助金を活用し、高校生向けのアントレプレナーシップ教育プログラムを実施 (県大：4 回、芸大：4 回)

【指標】(2 大学連携事業を検討・推進するための会議を毎年 2 回以上開催)

⇒2 大学の連携推進に関する会議を 2 回開催

自己評価：Ⅳ

### 人材の確保・育成

#### ◆項番 52 大学を支える事務職員の育成

- ・他機関 (名古屋大学) へ職員 1 名を派遣

【指標】(第三期最終年度までに海外派遣及び他機関への派遣研修に従事した法人固有職員の割合を 30%以上にする)

⇒2023 年度末現在の割合：26.3%

自己評価：Ⅲ

### その他

#### ◆項番 59 良好で安全・安心な教育研究環境の維持と情報基盤ネットワークの強化

- ・施設・設備の点検を適宜行い、長久手キャンパス器具庫受変電設備直流電源装置の更新を実施
- ・教職員に対し標的型攻撃メール攻撃予防訓練を実施し、標的型攻撃の脅威に備えるとともに、ウイルス対策ソフト未導入の教職員に導入を指導

自己評価：Ⅲ

## 自己評価結果の概要

2023年度実施項目			
I 実施していない	II 十分には実施していない	III 十分に実施している	IV 上回って実施している
未着手	着手はしたが 目標に到達していない	目標を達成している	目標を上回って 実施している
0 項目	0 項目	51 項目 (16 項目)	11 項目 (7 項目)
0 項目	0 項目	67 項目	18 項目
0%	0%	78.8%	21.2%

※ ( ) 内は重点的計画数

※2 重点的計画考慮後の合計

中期計画の大項目・中項目	項目数	I	II	III	IV
1 教育研究等の質の向上	45 (19)	0	0	35 (13)	10 (6)
(1) 県大	29 (9)	0	0	24 (7)	5 (2)
1-1 教育	17 (3)	0	0	14 (2)	3 (1)
1-2 研究	4 (2)	0	0	4 (2)	0 (0)
1-3 地域連携・貢献	4 (2)	0	0	2 (1)	2 (1)
1-4 その他	4 (2)	0	0	4 (2)	0
(2) 芸大	16 (10)	0	0	11 (6)	5 (4)
1-1 教育	9 (5)	0	0	7 (3)	2 (2)
1-2 研究	2 (2)	0	0	0	2 (2)
1-3 地域連携・貢献	3 (2)	0	0	2 (2)	1 (0)
1-4 その他	2 (1)	0	0	2 (1)	0
2 業務運営の改善	9 (3)	0	0	8 (2)	1 (1)
3 財務内容の改善	2 (0)	0	0	2 (0)	0
4 自己点検・評価及び情報の提供	2 (0)	0	0	2 (0)	0
5 その他業務運営	4 (1)	0	0	4 (1)	0
合計	62 (23)	0	0	51 (16)	11 (7)
重点的計画考慮後の合計	85	0	0	67	18

※( ) 内は重点的計画数